

主 題：新しい人生を生きる5**聖書箇所：ピリピ人への手紙 2章12-13節**

私たちは今、「クリスチャンとは新しく生まれ変わった者たちである」ということを学んでいます。「救い」とは何なのだろう？救われてクリスチャンになるとはどういうことなのだろう？と。ひと言で言うなら「新しく生まれ変わる事」であると学びました。これまで私たちは「新しく生まれ変わった人はどのように生きる人なのか」について見て来ました。悲しいことに、私たちは生まれながらに私たちを造ってくださった創造主なる神を愛していませんし、その方を信じていません。しかし、この救いに与ることによって、神を愛する者へと変えられました。不完全な愛です。でも、私たちの心の中には私たちを造ってくださった神に対する愛があります。そして私たちは、今まで自分の力に頼って生きて来たけれど、神に頼って生きるという新しい歩みを行なう者になりました。主がいてくださることがどんなに心強いかということ、私たちは何度も経験しています。一人ぼっちでいると思うときでも決してそうではなく、常に主がともにいてくださる、それがどれほど私たちの励ましになったことか、皆さんも経験されているでしょう。同時に私たちは、神を恐れる者として生まれ変わりました。それまで私たちは「自分の人生だ。何も恐れることはない、何も恐れるものがない。」と、自分の力を信じ、自分の知恵、自分の経験を信じて生きて来たかもしれません。

でも、恐れなければならない方がいるのです。その方は私たちのさばき主であられます。ここにいるすべての皆さん、歴史上のすべての人間はその方の前に立ち、すべてのことがその方によってさばかれます。私たちの行なったことだけでない、私たちが口にしたことだけでない、私たちが考えたことも、想像したことも、そのすべてをご存じである方の前に私たち一人一人は立って、その方によってさばきを受けるのです。それを考えるだけでも恐れが生じて来ます。残念ながら、そのような恐れをいつの間にか失ってしまいました。「人生、死んでしまったらそれで終わってしまうのだ。生きている時を楽しめばいい、生きている時が華だ。」と。しかし、私たちはこの罪の赦しをいただくことによって、私たちはその日が来ることを知って今日を正しく生きたいと思うし、主の前に立った時に、主が私たちのことを誉めてくださるように、この方が喜ばれることをより行なっていきたいと願う者へと変えられました。

ですから、これまで見て来たことは「救いとは私たちが新しく生まれ変わる事」です。神を愛する者と生まれ変わり、神を信頼する者として生まれ変わり、そして、神を正しく恐れながら、この方の目を意識しながら生きる者へと私たちは生まれ変わったのです。「救い」というのは、私たちが何か努力して得るものではありません。「救い」というすばらしい祝福を神が約束し、そして、神があなたに喜んで与えてくださるものです。私たちはそれをいただいて、その祝福を持って生きることが出来る者へと生まれ変わったのです。それだけを考えても、私たちは多くのことを神に感謝しなければいけません。

今日、私たちは「新しく生まれ変わった者の生き方」の四つ目のことを見ますが、テキストはピリピ人への手紙2章12-13節です。「:12 そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。:13 神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。」

A. キリスト者の責任 : 従順であり続ける

パウロは新しく生まれ変わった人、つまり、クリスチャンは「主に対して従順に歩んでいこうとする人である」と言っています。(1) 神を愛する者、(2) 神に信頼する者、(3) 神を恐れながら生きる者、それだけでなく、(4) 神に従順に従う者、それがクリスチャンだと言うのです。確かに、私たちは日々の生活を見る時に、従順に従ってはいません。常に、戦いがあります。従順に従っていきいたいと思う自分と、自分の考えるように生きていきいたいとする自分…。神のみことばのおりに生きていきいたいとの願いと、自分の考えるように生きていきいたいという願いと…。残念ながら、その中で私たちは葛藤し続けていて、多くの場合、敗北することが多いのです。

でも皆さん、救われた人というのは、つまり、神が生まれ変わらせてくれた人は、そのような失敗の中にあっても、神に喜んで従っていきいたいという思いを持って生きている人です。このような思いは、罪の赦しをいただいていない人たちのうちにはありません。この思いを持って生きるということは、あなたが神によって贖われているということの証拠なのです。ただ、私たちが考えなければいけないことは、では、どのようにすれば主に対して従順に歩み続けることができるのかということなのです。このよう

な願いを神がくださっていますが、では、実際的にどのように生きていくべきなのか？感謝なことに、神はそのことをちゃんと教えてくださっています。四つのことを見ていきます。

1. 正しい動機を失わないこと

ピリピ2：12に「そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいるときだけでなく、…」とあります。「いるときだけでなく」と、つまり、想像つきますね。パウロがギリシャのピリピの町にいた時に、教会の人たちは一生懸命生きました。いろんな奉仕もしたでしょうし、神が喜ばれることを率先してやっていました。なぜなら、パウロがいっしょにいたからです。パウロがいる時にはみんな熱心に働いたのです。そして、パウロは知っていたのです。パウロが次の町に移動すると人々の熱意は冷めてしまう可能性があることを。私たちも共通した点があります。そこでパウロは言うのです。「私がいる時だけでなく私がない時も、あなたたちはしっかりと神の前を従順に歩んでもらいたい」と。どうすればいいのでしょうか？

1) 人を恐れている人：人を恐れている人はその人がいる間は熱心に信仰的に振る舞おうとします。その人を恐れているからです。でも、その人がいなくなってしまうと別の生活が待っているのです。そういう生き方をしてはならないということです。

2) 神を恐れている人：人を恐れるのではなくて神を恐れるということです。なぜなら、この神は常にあなたとともにいてくださり、すべてのことをご存じであり、あなたの心の中を見ておられるからです。この神はあなたを離れてどこかにいく訳でもないし、休んでいるという時間もないのです。常に、24時間、365日、いつもあなたを見ておられます。あなたのことばも、あなたの態度も想像も思いもすべてご覧になっています。そのことをしっかり覚えるだけで、パウロがいようとまいと、神がともにいてくださるゆえに、神の前を正しく生きていきたいとなるはずです。

ですから、パウロがまず初めに言うことは、そのことをしっかりと覚えていなければいけないということです。「パウロがいるから頑張りましょう。パウロがいるから熱心にしましょう…」と、そのような歩みであってはならない、人を恐れるような間違った動機を持って生きるようなことがあってはならない、常にともにいてすべてを見ておられる神を恐れながら生きなさいと言います。

従順に生きていくためには、このように神の目を覚えて今日を生きていくことが大切です。

2. 神のみこころを知ること：みことばを通して

同時に、神のみこころに従順に従うために、神のみこころが何かを知らなければなりません。神が何を望んでおられるのか？神が私に何を命じておられるのか？そのことを知らないでどうして従順に生きていると言えますか？二つ目は主のみこころを知ることです。私たちは神のおことばである聖書を通して神のみこころを学ぶことが必要です。

3. 主のみこころを覚えること

神のみこころを実践していこうとするなら、その命令を常に覚え続けることが必要です。そのことを聞いてもすぐに忘れてしまうようでは、どのようにして実践できますか？私たちが何かをするためには、言われたことを忠実に行うためには、そのことをしっかりと覚えておかなければいけません。神に従順に従っていこうとするなら神の命令を知らなければいけないし、その命令を覚え続けないといけないのです。残念なことに、私たちはすぐに忘れてしまいませんか？礼拝でメッセージを聞いても水曜日位に忘れるでしょう？多分、正直なところ三日も覚えていないでしょう？どうですか？

もし、あなたが主の命令に対して従順でありたいと思うなら、その命令を忘れてはいけません。しっかりと覚え続けることが必要です。テマン人エリファズがこのように言っています。ヨブ記22：22「神の御口からおしえを受け、そのみことばを心にとどめよ。」、これは確かに真実です。聞いてもすぐに忘れるようならどのようにして実践できますか？と言うのです。従順に従っていききたいという願いを持っている皆さん、実際に従順に従って行くためにはみこころをしっかりと知り、それを忘れてはいけません。

4. 恐れおののくこと

パウロは言います。12節「私のいない今はなおさら、恐れおののいて」と。「恐れおののいて」、このことに関しては6/8にⅡコリント5：11で学びましたから、詳しい説明はしません。

1) 自分自身の罪深さを知っている

私たちは新しく生まれ変わったのです。生まれ変わった私たちは神がお喜びなることを実践していきたいという願いを持って生きています。でも残念ながら、それを実践していません。でも、心の中に神に喜ばれたい、神に喜ばれることをしていききたいという願いを持っていきますから、私たちはその願いと実際の歩みを見た時に「私はいったい何をしているのだ？…」と、いつもそのように感じるのです。パ

ウロのことばを借りるなら「私は本当にみじめな人間です。…」、「情けない…」、これが神のみこころだと学んで教えられているにも関わらず、実生活でそのようにやっていない、「私は本当にみじめな人間です。」（ローマ7：15）。パウロがそうだったように、神は私たちに本当の姿を示してください。私たちは神の前にいかに罪深い者なのか？と。

2) 主を喜ばせようと生きている

そして、神に信頼することがどんなにすばらしい祝福であるかと、私たちはいつもそう話しているのに、実際は主に信頼しないで生きているのです。自分の知恵や自分の力に頼って生きていませんか？私たちはどんな時でも神の前に出て神の知恵を求めていますか？どんな時でも神の前に出て神の力を求めていますか？旧約聖書を見ても、信仰の勇者たちは王から何かを問われた時には、まず主の前に出て主の前に祈ってから答えています。彼らはみな分かっていたのです。自分たちがいかに愚かで罪深いかを…。だから、彼らは神に喜ばれるためには神の助けが絶対に必要だということを知っていたのです。皆さんも知っていますか？あなたが神に喜ばれるように生きていこうとするためには100%神の助けが必要なのです。みことばは私たちが神に喜ばれる生き方をすることができるかと教えています。でも、そのためには神の助けをいただかなければいけないのです。

そのことをパウロは私たちに繰り返し教えていますが、今日のテキストであるピリピ2：12でも、ピリピ教会の人たちに対して「神に対して従順であり続けるように」と言っています。「恐れおののいて自分の救いを達成してください。」と、そして、その自分の救いを達成するためには、従順が不可欠であるとパウロは言います。多くの人はこの箇所を聞いていろんなことを考えたり疑問を抱きます。パウロはここで私たちは行ないによって救いに与ると言っているような…。恐れおののきながら主に従い続けることによって、最終的にやっと救われたと言えるのではないかと？その時までには一生懸命努力しなければいけないのではないかと…。確かに、そのように見て取ることもできます。しかし、パウロのこの命令は何を意味しているのかを見ましょう。

(1) 意味していないこと

まず、この箇所が教えていないことは何かを見ます。それは「罪からの救いを得るために努力し続けなさい」ということです。そのことを教えてはいないのです。皆さんがどんなに努力しようと、心を入れ替えようとしても、あなたの努力によってあなたの心を清くすることはできません。なぜ、私たちの心は生まれながらにこんなに汚いのでしょうか？ある人の成功を喜ぶかもしれないが、その同じ心がある人の失敗を喜んでいのです。時には、ある人が失敗することを願っていたりもする。なぜ、私たちの心はこんなことを考えてしまうのでしょうか？聖書を見れば明らかです。悲しいことに、私たちは生まれながらにそのような心を持って生まれて来ているからです。そして、もっと悲しいことは、この持って生まれた汚れた心を私たちの努力によって聖めることができないということです。ある行動を矯正してみたり、また、少し性格が変わるようなことがあるかもしれませんが、しかし、どんなに努力しても、私たちは自分の心を完全に聖くすることはできません。ですから、この箇所は、私たちの努力によって罪の赦しをいただくということを教えているのではないのです。

もう少し説明を加えると、そういう人はいるのです。一生懸命努力をして、一生懸命頑張っている人になりましょう、一生懸命努力をして天国に入れるような人になりましょうと…。でも、そのようなことをしたときには次のようなことが起こります。一つは、非常に自信過剰な人になります。なぜなら、自分の力や努力で救われると思っている人は、必ず、自分と同じことをしていない人をさばき始めるのです。「私はこれだけの事をしている。教会にはずっと行っている。お祈りもしているし、このような奉仕もしている、だから…」と思っている人は、そのようにしていない人たちを見て「なんてひどい人たちだ！」と言って、彼らを責めます。

実際にそのような例が聖書の中に書かれています。二人の人が祈るために宮に上った時に、一人は取税人でした。みなを罪人と呼んでいただけでなく、本人も自分がどれ程心の汚れた者であるかをよく分かっていました。ですから、彼は天に顔を向けようともせずに「罪人の私をあわれんでください」と、そのようにあわれみを請いました。もう一人はパリサイ人でした。彼はこのような祈りをささげています。ルカ18：11「…『神よ。私はほかの人々のようにゆする者、不正な者、姦淫する者ではなく、ことにこの取税人のようではないことを、感謝します。』」と。情景が描けます。ここに自分は正しいと思っている人がいるのです。「自分は一生懸命正しい行ないをして来た。私はゆすりません。私は正しいことをして間違ったことをしていません。私は姦淫を犯していません。だから、私は神の前に喜ばれているのであって、この取税人を見てください。みなから嫌われているこんな人とは私は全然違います。」と。もし、私たちがこのパリサイ人に「あなたは今日死んだら、天国に行けると思いませんか？」と聞いたな

ら、彼は間違いなく「当たり前でしょう！だって、私はこんなに良いことをしているのだから…」と返すでしょう。

ここでイエスが言われた通り、どちらが神の前に義とされたのか？パリサイ人ではありません。パリサイ人は自分は天国に行けると思っていました。でも、イエスは「彼は行けない」と言われたのです。だれ一人として良い行ない、徳を積むことによって天国に入れるような完全に罪赦されて清い者になることなどできないからです。しかし、取税人は神の前に赦しを請いました。神のあわれみを請いました。イエスは「彼は御国に入ることができる」と言われました。なぜなら、彼は人と比較することをしないで、ただ、自分の罪深さを知って赦してくださる神の前にその罪の赦しを請うたからです。

ですから、聖書が教えることは、自分の努力をもって救いに至ることは決してない。そして、そのように信じて、そのようにやっていると、「私はこのような行ないゆえに正しいのです」という人は天国に入れないだけではありません。必ず、人をさばくというプライドの高い傲慢な人間になっているのです。また、これの逆のケースも考えられます。自分の力で救いを得ることができると思っている人は、このような非常に傲慢な人間になり得るし、また、非常に不安な人間になり得ます。「いつまで経っても、私は本当に救われているのだろうか…自信がない。私は今日死んでも天国に入れるのだろうか？」と、その不安から勝利することができません。なぜなら、日々罪を犯しているからです。「こんなに罪を犯している私が本当に天国に行けるのだろうか？こんなにも罪を犯し続ける私が、罪赦されたと言っているけれども本当に赦されているのだろうか？」と…。

どちらのケースであっても、彼らの共通した問題は「自分の力に頼っている」ことです。だから、傲慢な人は「私はこんな良いことをしているから天国に行けます。自分で自分を救うことができる。自分で心を清めることができる。」と思っているし、片方は、自分の力でやろうとして、そして、自分の力ではできないことに気付いているのになお、自分の力でやることを止めないから、いつまで経っても不安なのです。

(2) 意味していること

私たちの信仰は、私たちが何を達成したかではなくて、イエスが何を達成して下さったのかに立っているのです。皆さん、よく考えてみてください。私たちの信仰はあの十字架に立っているのです。イエス・キリストの復活に立っているのです。私たちが何をしたかではありません。イエス・キリストが何をしてくださったかです。私たちは自分の力で救いを得ることはなく、でも、イエス・キリストはあの十字架であなたの身代わりとなって死んでくださり、そして、三日後に約束通り、死よりよみがえって来ることによって彼こそが救い主であることを明らかにします。キリストに立つのです！ですから、この12節のみことばが私たちに教えてくれることは、私たちは自分の努力によって救いに与るのではないということです。

では、何を教えているのでしょうか？「自分の救いを達成してください。」とあります。この「達成してください」ということばが非常に重要です。これは「成し遂げる、遂行する」、また、「完成まで押し進める」という意味があります。「あるものを完成する、そのときまで推し進めていく」ということです。ここでパウロが言いたかったことは、私たちイエス・キリストのあわれみによって救われた者たちは、日々の生活において、信仰において、成長することが必要だということです。ここで言われているのは、罪からの赦しではなく、霊的成長のことです。今見て来たように、私たちは自分の努力によって罪の赦しをいただくことはありません。神のあわれみによって救いを得たのです。エペソ2：8に「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」とあり、ガラテヤ2：16でも「しかし、人は律法の行いによっては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる、ということを知ったからこそ、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。これは、律法の行いによってではなく、キリストを信じる信仰によって義と認められるためです。なぜなら、律法の行いによって義と認められる者は、ひとりもないからです。」とある通りです。

でも、それで終わるのではありません。ピリピ3：12-14を見てください。「：12 私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。そして、それを得るようとキリスト・イエスが私を捕らえて下さったのです。：13 兄弟たちよ。私は、自分すでに捕らえたなどと考えるはしません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、：14 キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。」とあります。Iコリント9：24-27には「：24 競技場で走る人たちは、みな走っても、賞を受けるのはただひとりだ、ということを知っているでしょう。ですから、あなたがたも、賞を受けられるように走りなさい。：25 また闘技をする者は、あらゆることについて自制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです。：26 ですか

ら、私は決勝点がどこかわからないような走り方はしていません。空を打つような拳闘もしてはいません。:27 私は自分のからだを打ちたたいて従わせます。それは、私がほかの人に宣べ伝えておきながら、自分自身が失格者になるようなことのないためです。」と書かれています。

パウロは、イエス・キリストを信じ罪の救いをいただいたけれど、それで終わったのではない、まだ前進していると言っています。そして、I テモテ6：12を見てください。「信仰の戦いを勇敢に戦い、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたはこのために召され、また、多くの証人たちの前でりっぱな告白をしました。」とあります。ここで教えていることは、a. 戦いなさい b. 獲得しなさい c. 召された です。つまり、ピリピ2：12と同じように、救いを得るために、罪の赦しをいただくために頑張って努力しなさいということではないのです。パウロがこれらの箇所教えていることは、神はあなたに救いを与えてくださる、でも、救いをいただいたあなたには責任があるということです。どんな責任か？それは「前に向かって進んでいく」という責任です。先の「達成しなさい」ということばを思い出してください。そのことばは「完成に向かって、完成まで押し進めていくこと、完成に向かって進んでいく」ということでした。

あなたは神の一方的なあわれみによって罪の赦しをいただいた。そして、罪の赦しをいただいた人はそこで立ち止まるのではなくて、救われた者として赦された者として前に向かって進んでいくのです。信仰においてしっかり成長していくようにと言うのです。

ウィリアム・ヘンドリクソン博士はこのように言っています。「御霊の実のすべてが自分の生活において実るために努力すること」、ガラテヤ5：22, 23に記されている九つの御霊の実のすべてがあなたの生活において実るために努力をしなさいと言います。そして、「霊的・道徳的完全を目標に歩むこと」、それがここでパウロが教えていることだと言うのです。私たちクリスチャンが忘れてはならないことは、罪の赦しがゴールではないということです。罪の赦しはスタートです。なぜなら、神は私たちを目的をもって造ってくださったからです。その目的とは、創造主なる神を愛してその方に従っていくことです。ところが、私たちは誤った選択をしました。「従う」のではなく「自分の好きなように生きていく」という選択です。私を造ってくださった創造主を愛するのではなくて、自分を愛して自分の好きなように生きていきますと。しかし、罪が赦されることによって、その本来の目的に沿って生きる者へと私たちは変えられたのです。私たちを造ってくださった創造主なる神を愛し、その方の命令に従って生きていくことです。

私たちはこれまで自分の好きなように生きて来ました。もしかすると皆さんは「人生ってこんなものだ…」と諦めているかもしれません。でも、人生はそんなものではありません。あなたは目的を持って造られたのです。神の最高傑作として造られたのです。神はあなたを愛して下さって、あなたにすばらしい計画、約束を与えてくださった。あなたが自らの罪を悔い改めて、あなたを造ってくださった創造主なる神に立ち返る時に、イエス・キリスによってあなたのすべての罪を赦していただく時に、あなたは生まれ変わり、そして、あなたが一生懸命これまで願って来た幸せや満足、喜びなど、あなたの努力では決して得ることのできないものを神があなたに与えてくださるのです。

どうも私たちは救われることが信仰生活のゴールであると思ってしまういませんか？救われたならそれで一件落着と。いいえ！救われた私たちはその日から神が私を造ってくださった本来の目的に沿って生きていくのです。それによって何が起こるか？それによって、私を造り私を救ってくださった神のすばらしさが現わされていくのです。私たちはそのために造られたのです。神の栄光を現わすために造られた。でも、私たちは神に逆らうことによって神の栄光を現わすのではなくて、その栄光を汚す者として生きているのです。でも、生まれ変わることによって、神の栄光を現わす者としての新しい歩み、本来の歩みがスタートしたのです。だから、パウロは言うのです。「しっかりとあなたの信仰の成長を目指して歩んでいきなさい。神の命令に従って従順に生きていきなさい。それが神が私たちに望んでおられることだ。」と。

ですから、この2：12のみことばを通して私たちが学ぶことは、神は私たちに主のみこころに従うことによって、信仰者として救いをすでにいただいた者として成長していきなさいということです。聖霊なる神はあなたをイエス・キリストに似た者に変えようとしてくださっているから、その神の働きを邪魔するのではなく、あなたの責任を果していきなさい。あなた自身がキリストに似た者に変えられるために、しっかりとみことばを学び、みことばに従っていきなさい。本来の生きるべき生き方をもって神の栄光を現わし続けていきなさいと、これらのことが教えられています。

さて、確かに「恐れおののいて自分の救いを達成してください。」と言われましたが、もし、私たちが「分かりました。頑張ってみます。」と言うなら、必ず、これまでと同じように私たちは失望します。

皆さん、もう気づかれたでしょう？私たちがどんなに「頑張る！」と誓っても、私たちはその誓いを果して来ることはできなかったではないですか？「神が喜ばれる人になります」と決心しても、なかなかそのようにはならないでしょう？聖書は私たちを正しく導いてくれます。

B. 神の助け 13節

次の13節のみことばを見てください。「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。」とあります。なぜ、13節にこのようなみことばが記されているのでしょうか？12節では「このように努力しなさい。自分の救いを達成しなさい。」と言いました。そして、その次にパウロは、神はこのように働いてこのようなことをしてくださると言っているのです。ここに記されていることは神の働きであり、神の助けのことです。神は「このように生きていきなさい」とあなたに教えて、そして、同じように、どうすればそれが達成できるのかということも教えているのです。そのカギは「神」です。救いにおいてもカギは神でした。神があなたをその罪から救い出してくださった。ちょうど溺れているような私たちを神ご自身がそこから救い出してくださったのです。「私が頑張って泳いだから…。」ではないのです。神があなたをその状態から救い出してくださったのです。罪の力から罪のさばきから、その束縛からのろいから救い出してくださった。すべて神のわざでした。

◎私たちに助けが必要であることを神はご存じ

でも、神はそれで終わったのではないのです。今度はあなたを助け続けてくださるのです。何のために？あなたが神のみこころに従って生きていくためにです。なぜ神はそんなことを為さるのか？すでに見て来ました。あなたが本来の目的に沿って神の栄光を現わすためにです。あなたが創造された本来の目的に沿って生きていくために、神はそのために必要な助けを備えておられるのです。そのことがここに記されています。どのような約束でしょう？

◎主は継続して私たちに働き続けておられる

1) その目的 : 何のために働いておられるのか？ ⇒ キリストに似た者となるために！

「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。」、先に見た通り、神はあなたがいかに弱い者であるかをよくご存じです。あなたが説明しなくてもちゃんと分かっておられます。あなたがどんなことをして来たのか？どんなことを口にして来たのか？どんなことを想像して来たのか？また、これから何を為すのかもすべてご存じです。だから、神なのです。その神がこのように言われます。ヨハネの福音書15：4「わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。」と。枝がその幹につながっていなければ実を結ぶことができないように、あなたもその幹である神から離れて何かができるのではありませんと言います。神の助けによって実を結ぶことが可能だとイエスはすでに教えてくださっています。

(1) 良き働き

皆さん、私たちの努力でもって救いに与ることが出来るのなら、イエスがこの地上に来る必要はなかったのです。「頑張りなさい」と教えられてそれで良かったのです。イエスが来てくださって、あなたの身代わりに死んでくださったということは、私たちの努力、私たちの力では救いに与ることがないからです。そのことを神はご存じだから救い主を送ってくださったのです。そして、神は「このように生きていきなさい。これがわたしがあなたを造った目的です。その目的に沿った生き方ですよ。」と教えてくださったのです。ピリピ1：6に「あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。」とある通りです。

(2) 変態の働き

でも同時に、神はあなたがそれを実践することのできない弱い者だということを知っておられます。だから、イエスは「わたしの助けがなかったらできない。」と言われます。あなたが神の前に正しい歩みをしていくためにあなたには神の助けが必要です。先に見たように、聖霊なる神はあなたをイエスに似た者に変えようとしています。聖霊なる神がそのような働きをしてくれているのです。だから、私たちはその神の働きとその助けをいただきながら歩いていくことが必要なのです。私たちがよく覚えているみことば、Ⅱコリント3：18に「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」と書かれている通りです。

2) その場所 : どこで働いておられるのか？

ピリピ2：13のみことばは、神はその働きをご自身のみこころに沿って、ご自分の考えによってあなたがたのうちに為すと記しています。では、どこで働かれるのか？そのことも書かれています。

(1) 「意志」に働かれている

「志をたてさせ、…」とあります。つまり、神はあなたの意志に働かれると言うのです。「志を立てさせる」というのは、あなたの中にこのようなことをしたいという思いを神が与えてくれるということです。だから、先に見た通り、この救いに与った人たちは、だれかから教えられてそれを語っているのではなく、神が喜ばれることをしたいという思いを抱くのです。これは救われた者たちに共通して起こることです。神に対する愛が心の中に植えつけられたということです。神を信頼して生きていこうという思いが、いつの間にか心の中に植えつけられているのです。なぜなら、救われたからです。しかも、神があなたを救ってくれたからです。その神はご自身の考えに沿って、あなたのうちに働き、あなたの心の中にそのような思いを与えてくれるのです。その思いというのは、信仰の成長を願って、もっとイエス・キリストに似た者になりたいという思いです。その願いを持ちながら歩んでいく人へとあなたを変えてくださるということです。そのような働きを神が為さるのです。このみことばが教えるのは、神はあなたの心の中に働いて、あなたがそういう思いを持つようにされるということです。

ですから、聖書のことばを聞くときに、あなたが「分かりました、神さま。そのように生きていきたいです。」とそのような思いを抱き、そのように決心するのは、主ご自身があなたの心に働かれるからです。神はそこまで働いていると言うのです。

(2) 「行動」に働かれている

「事を行わせてくださるのです。」と、実際に行動するその力も神のわざだと言います。なぜこのようなことが起こるのか？神は皆さんの心を変えてくださるのです。新しくされた心に新しい願いが与えられるのです。新しい願いをいただいた私たちは、それを実践していくのです。そのように神は働かれるのです。

なぜ、「心」という部分が大切なのでしょう？心が私たちのすべての行動をコントロールしているからです。人の内側、心が悪ければそこから悪い行ないが出て来るように、心が新しく変えられた者たちは、その新しい心から新しい行ないが出て来るのです。それが神が約束されている救いなのです。これは100%神のみわざであり、神はあなたのうちに働いて思いをくださり、そして、それを実践させてくださる、ここまでが神の働きだと言うのです。こんなに細部に亘るまで神はすべてのことをしてくださっているのです。

ですから、信仰者の皆さん、あなたが神に喜ばれることをしたい、みことばに従っていききたい、神の栄光のために生きていききたいと、このような思いを持ってあなたが今日歩んでいるのは、あなたのうちに神が働いてくださっているからです。あなたの意志に神が働いてくださっているのです。そして同時に、そのように実践できるように神が力を与えてくれると言うのです。だから、私たちは神の方を向かなければいけないのです。

多くの人たちはそこまで分かっているのに「では、頑張ります。」と言って自分の力でやろうとするから失敗に終わるのです。みことばはそのようなことを私たちに教えていません。神ご自身が為さる働きがこの13節に書かれているのです。ここの主語は「神」です。神が「志」を立てさせる、心に働いて思いを与える。同時に、そのことを行わせてくださるのです。ですから、私たち信仰者は「神さま、あなたがおっしゃるように私は生きていきたいです。主よ、どうぞ助けてください。」と願うのです。「絶えず祈りなさい」というみことばを覚えておられるでしょうか？Iテサロニケ5章で学びました。なぜ祈り続けることが大切なのか？それは神に喜ばれることをしていくためには、間違いなく、私たちは神の助けを常に必要としているからです。人に出会う時も「神さま、助けてください。どのように語ったら良いのか…」、今日という日を迎えてその日をどう生きていくのか？その瞬間瞬間に神に助けを求め続けるのです。「あなたに喜ばれることをしていきたいです」と。神の約束は「あなたを助けてくださる」です。

でも、その助けをいただきながらも私たちは失敗するのです。だから、神が喜ばれることは何か？神のみことばに従っていくことです。そのみことばが教えます。罪を犯したなら「告白しなさい」と。不思議に思いませんか？なぜ、神はそんなことを命じたのでしょうか？それはあなたが罪を犯すことを神はちゃんとご存じだからです。イエスはあなたの昨日の罪、過去の罪のためだけに死んだではありません。現在もそして未来のことも、すべてのことをご存じです。ですから、どんなにあなたが主の前に心砕いて涙を流しながら「神さま、このように生きていきたいです。どうぞ助けてください。」と祈っても、そのあなたが罪に罪を犯すことを神は知っているのです。だから、その罪を告白しながら生きていくのです。クリスチャンとはそういう者なのです。

天に行って栄光のからだをいただく時まで、残念ながら、罪に100%完全に勝利することはできな

いのです。でも、イエスはもう勝利してくださった。だから、私たちは勝利者の側に付く者として、その罪をいつも神の前に告白しながら生きていくのです。神はそのように実践することを教えてくださったのです。みことばを見ましょう。

ピリピ 2 : 16 「いのちのことばをしっかりと握って、彼らの間で世の光として輝くためです。そうすれば、私は、自分の努力したことがむだではなく、苦勞したこともむだでなかったことを、キリストの日に誇ることができま

す。」
エペソ 2 : 10 「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」

I ペテロ 4 : 2-4 「:2 こうしてあなたがたは、地上の残された時を、もはや人間の欲望のためではなく、神のみこころのために過ごすようになるのです。:3 あなたがたは、異邦人たちがしたいと思っていることを行い、好色、情欲、酔酒、遊興、宴会騒ぎ、忌むべき偶像礼拝などにふけたものですが、それは過ぎ去った時で、もう十分です。:4 彼らは、あなたがたが自分たちといっしょに度を過ぎた放蕩に走らないので不思議に思い、また悪口を言います。」

ガラテヤ 4 : 19 「私の子どもたちよ。あなたがたのうちにキリストが形造られるまで、私は再びあなたがたのために産みの苦しみをしています。」

ガラテヤ 4 : 19には「形造られる」とおもしろい動詞が記されています。「形造る」とは、辞書によるとこれは「外側のこと」ではなく「その人の本質的な姿」のことです。つまり、神はあなたの外見を変えようとしているのではなく、あなたの内側を変えていこうとされているのです。

結論:

パウロはここで救われたあなたは新しい心をいただいた、新しい願いを持って生きる者になったと言いました。神に喜んでいただきたいという願いを持って生きる者になったのです。そこでパウロは、しっかりと神のみこころに従い従順に歩いていきなさい、「これがわたしがあなたに命じることです。これがみこころです。」と言いました。ところが同時に、その命令を与えたパウロ自身、また、神ご自身は、私たちの弱さを知っておられるゆえに、それを実践するためには忘れてはならないことがある、それは神に頼ること、神の助けをいただかなければ実践することはできないと言うのです。

そうすると、信仰者は神が教えてくださることに対して「このように生きていきます。どうぞ、私を助け続けてください。」と、いつもいつも神の助けをいただきながら、教えられたみことば、みこころをしっかりと心に抱いて、このように生きていきたいという祈りをもって、そして、罪の告白を行ないながら主に従い続けていくのです。

このように生きなさい、それが主のみこころであると教えてくれています。神が私たちを救ってくださった。そして、神は私たちの内側を変えていってくださる。でも、その働きが益々私たちの内側でなされ続けるためには、「主のみこころに従い続けること」です。

信仰者の皆さん、みことばを学び、みことばに従うこと以外に、あなたの信仰が成長する術はありません。神の助けをいただきながらしっかりとみことばに従い続けていくことです。その時に、神はあなたを通して栄光を現わしてくださるのです。感謝なことに、創造の目的をあなたを通して神は成してくださるのです。「従順であれ！神の助けをいただきながら従順でありなさい！」と。

《考えましょう》

1. 「自分の救いを達成する」とは、どういうことかを説明してください。
 2. 救われたあなたのうちに始められた主の働きを説明してください。
 3. どうしてこのような働きがあなたのうちには必要なのでしょうか？
 4. この主の働きを妨げないためには、どうすれば良いのでしょうか？
- また、この働きがあなたのうちに益々盛んになるためにはどうすれば良いのかを記してください。